

環境とサステナビリティ  
(Environmental Science for Sustainable Society)

	1年次	前期	金曜・1コマ	2単位
担 当 者	大塚 耕司, 牧岡 省吾, 斎藤 憲, 山本 由美子			
授 業 目 標	<p>現代社会におけるサステナビリティの重要性について理解させるとともに、持続的に自然と人・人と人が共に生きるための基礎となる環境システムについて、自然科学的、社会科学的、人間科学的側面から理解させる。また、科学技術など学問の発展が環境や社会へ与える影響について考え、専門家としての責任を自覚できる能力を身につけさせることを目標とする。</p> <p>具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 持続可能社会を実現するための課題について、自然の観点から説明できること。</li> <li>2. 持続可能社会を実現するための課題について、社会の観点から説明できること。</li> <li>3. 持続可能社会を実現するための課題について、人間の観点から説明できること。</li> <li>4. 研究公正に関する基本的な考え方について説明できること。</li> </ol>			
授 業 概 要	<p>現代社会におけるサステナビリティの重要性に関する授業の後、環境システムに関して自然科学、科学技術の役割を含む社会科学、人間科学の各側面から講義する。さらに、研究公正に関する基本的な考え方について講義する。</p> <p>第1回～第5回 人間環境科学の視点 (担当者: 牧岡省吾)          第6回、第11回～第13回 環境共生科学の視点 (担当者: 大塚耕司)          第7回～第10回 社会共生科学の視点 (担当者: 斎藤憲)          第15回 研究公正の視点 (担当者: 山本由美子)</p>			
授業時間外の学習	毎回の授業で、次回の授業までに調べておくべき課題を示す。これと併せて、各回の授業内容について復習しておくこと。			
教 科 書	プリント配付			
参 考 書	<p>ドネラ・メドウズ他、枝廣淳子訳『成長の限界 人類の選択』2005年、ダイヤモンド社</p> <p>ニッキー・チェンバース他、五頭美知訳『エコロジカル・フットプリントの活用』2005年、合同出版</p>			
成 績 評 価	<p>授業目標 (達成目標) 1～4の達成度で成績評価を行う。単位を修得するためには、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 持続可能社会を実現するための課題について、自然の観点から、授業で扱った概念を1つ以上用いて説明できること。</li> <li>2. 持続可能社会を実現するための課題について、社会の観点から、授業で扱った概念を1つ以上用いて説明できること。</li> <li>3. 持続可能社会を実現するための課題について、人間の観点から、授業で扱った概念を1つ以上用いて説明できること。</li> <li>4. 研究公正に関する基本的な考え方について、授業で扱った概念の半分以上を説明できること。</li> </ol> <p>上記の4点を達成することが求められる。授業中に行う小テストと提出課題により総合的に評価する。</p>			
備 考				